

No. 96

2017

2月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
下井美紀男
印刷
下市田・キタバヤシ印刷



松源寺全景

迎春
大河ドラマ「おんな城主直虎」スタート
変わっていきけるか高森町ノ注目的一年



松源寺本堂



松源寺山門

快晴の空、南アルプスの山並みから初日の出を迎えた平成二十九年、正月三ヶ日がこれほど穏やかだったのは何年ぶりだろうか。今年がこのようなに平穏で自然災害のない一年になることを祈ります。

今年一月から始まった柴咲コウ主演のNHK大河ドラマ「おんな城主直虎」その井伊直虎の許嫁（いいなづけ）亀之丞、後の井伊直親は命を狙われた今川義元の追っ手から逃れ、九歳から二十歳までこの市田郷の「松源寺」で過ごしたとされる。

故郷を偲んで奏でる「青葉の笛」で寂しさを紛らわせ、この地方を支配していた領主松岡氏のもと剣術など武芸を磨いた。十二年後に故郷の遠州井伊谷に戻り井伊家の当主となるが二十七歳の若さで非業の死を遂げる。

ドラマの中で松源寺・松岡氏とこの市田郷「青葉の笛」がどのように紹介されるか注目だ。

松源寺には昨年だけでも百台近くの観光バスが入り、ボランティアの皆様が観光案内をしています。高森町の観光面も大きく変えていくチャンスです。

酉年の今年、下市田の郷そして高森町が大きく羽ばたけることを期待します。

区の情勢について

区長 下井 美紀男

萩の郷の二〇一六年は、ました。しかし昨年からは、現在の工業団地の続きに多様な産業の立地と豊かに元気で躍動に満ちた一年でした。一方、昨年各地で地震や台風による災害も多くありました。おかげさまで我が郷土においては大過なく過ぎせ何よりでした。本年も豊かにして安全な一年を祈り願うところです。

さて区内の主な情勢として、土地利用の面で下市田河原に更なる工業化の話があります。昭和四十年代に工業団地として企業誘致がなされて以来、これ以上緑の美田を減ら



下市田河原農免道先 出砂原方面

の地区計画による要望から農免道の終点から明神橋までの間の交通安全を踏まえ、拡幅改良と歩道の設置について検討をし、ご理解をいただきながら進めて来ました。このほど地形測量という段階になりました。企業立地とともに増す交通量に地元住民の皆様の安全が損なわれないよう自治組織として注視していきたく考えます。

「松岡城址秋を観る会」に参加して

私たち「ななつ星」は、昨年の春、高森町役場に勤務する女性が主になり結成した篠笛のグループです。

大河ドラマの主人公「直虎」の許嫁「亀之丞」が、この高森町に匿われていたという史実を多くの人が知ってもらいたい。亀之丞が奏でていた「青葉の笛」にちなんで篠笛の音色を添えて……

そんな気持ちでメンバーが井伊直虎と亀之丞にかかわる歴史を学び、篠笛の練習をし、物語のシナリオを考え、演奏する曲を決めました。

活動を始めてから町内のイベントで演奏を行い、下市田の敬老会でも発表させていただきました。

また、昨年の十一月「松岡城址秋を観る会」



ていたのかと思うと心強くも感じられました。結成間もない私たちを松岡城址のイベントに参加させていただいたこと

に感謝いたします。これからも練習を重ねて、亀之丞の物語を伝えていきます。

ななつ星

委員会活動報告

林務委員長 唐澤 清美

***** 出来る範囲が減少し委員会と相談し、

昨年は七年に一度の萩代議員会に申し入れを行なった。委員の中に林業について減額となりました。

来年度から三年に一回の山作業の出労となり、年度内三回作業を予定しています。また出不足金についても減額となりました。

今後区有林の作業に御協力をお願い致します。

山作業がメインです。現在ではヒノキの育林作業を行っています。現場は足場の悪い所で、出労された皆さんには慣れない仕事で御苦労をお掛けしました。

区有林はヒノキが多く植えられていて、年数も経過し大きく成長して、専門の者でないと作業も難しくなっています。区民の皆さんが作業の



林道除草作業

まるごと収穫祭 「おしるこ店」にぎわう!



当日十九日は、予想通り大雨となり準備等大変な中、おしるこ店にぎわう! でした。今年も異なるとは思いますが、前回より足元も昨年より良い状態でした。各区分担が例年通りと決まっております。作業等も和気あいあいにおしるこ準備が出来ました。雨の降りしきる中、寒さもあり九時半の時間前から来店客があり前倒しで皆さまに提供いたしました。温かいおしるこは、雨降りには格好の準備中からテーブルに着く人もあり、あわただしくなりました。昨日来のなかでも来客の皆さん口々に「体が暖まる」「おいしくいただきました」の笑顔が広がりました。あいにく初日雨となりましたが、予定通り完了となり明日の天候に期待することとしました。

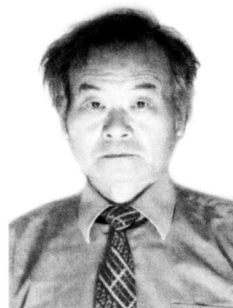
二十日は、雨の心配がありませんでしたので早めに出かけました。今回は、おしるこ三千食には少し届きませんでした。下市田区のおしるこ提供は、まるごと収穫祭では目玉店となり、よき一層皆さんが楽しみにしている店になったと思います。笑顔で沢山届けられるように、大成功でした。

(木下 正記)



萩山郷土芸能保存会

幹事長 遠山 元



昨年、の定期総会にて、幹事長に就任しました五区の遠山でございます。区民の皆様方をはじめ役員の方々のお力添えを頂き、この伝統ある萩山神社の春の大祭を盛大に開催できるよう幹事一同精一杯努めて参る所存でございます。

今後、三月九日より稽古初め、十九日から屋台準備作業、二十四日稽古納め、二十五日宵祭り、二十六日日本祭りを迎えます。



平成二十九年 幹事会役員

幹事長	五区 遠山 元
副幹事長	二区 長尾 敏一
同	二区 塩沢 基裕
会計幹事	一区 大場 泰司
副	六区 村澤 哲夫
備品幹事	三区 白河 米男
副	四区 井原 正治
幹事	一区 串原 治延
同	三区 牧島 正明
同	四区 上沼 直行
同	六区 小池 昇
囃子部	
幹事部長	原 文夫
同 副	宮入 正男
同 副	市岡 義久
獅子部	
幹事部長	上沼 春樹
同 副	小林 靖志
同 副	矢澤 克浩
同 副	竹村 進
獅子曳き部	
幹事部長	湯沢 信夫
同 副	吉田 重和
相談役	二区 福島 昇
相談役	四区 牧島 寿明
本会計	一区 富田 幸雄

下市田史談会の歩み

会長 片桐 猛

下市田史談会の発足は昭和三十年正月、下市田区会所（荒神様にあった建物）で下市田と吉田・出原の好学の諸氏数名が炉端を囲み、市田と周辺の郷土史・古文書について談論し知識を深めあったのが始まりと記録されております。

この六十一年間、発足の趣意にそって多くの先輩と現会員が下市田区有文書・地元の歴史、史跡の調査研究と保存活動に努めて、その成果を発表し続けております。

これまでの主なものだけでなく、下市田区有文書を修復整理し、「下市田区有文書目録一集・同二集」「萩山のさと第二集」「下市田の方言集」を発売刊。「写真で残す萩の郷」区・支館発行による依頼を受け、下市田の史跡の調査取材写真執筆に数年をかけて編集に協力してきました。

このほか、惣兵衛堤防の町文化財指定への取り

くみ、協賛として、市田柿の碑建立、松岡氏五百年慰霊碑建立・法要会と記念誌発行に協力し、幅広く活動しております。

また、会報「史談会だより」を平成九年創刊、そして今、第三十二号を編集中です。この冊子には多くの調査研究発表と会の活動を載せ、資料として役立っております。

これらを、下市田区「萩の郷文化祭り」に毎年楽しく発表し続け、好評と聞いております。

会は気楽な話し合いの場として毎月定例会を、研修旅行・見学会などを行っており、関心をお持ちのかたの入会をお待ちしております。



萩の郷文化祭り



区有文書分類・解説・整理

萩山神社新総代挨拶

氏子総代長 塚本 洋四郎

あけましておめでとうございます。

今年度は十二月三十一日より快晴日が続き寒さもきびしくなく、初日の出も境内よりとても綺麗に見え、心が高揚し有り難い気持ちになりました。下市田区民の大勢の参拝があり、町外の方の来訪もあり、とても有り難い気持ちになりました。

昨年は七年に一度の御柱があり、雪の中諏訪大社へ、荘厳の中祭事が行われ、薙鎌を頂き、神社まで持ち帰りました。

其の後、一連の御柱の行事祭事が行われ、萩山神社の境内に立派な御柱が立っており見事な物です。

これからの神社としての祭事が、一月の元旦祭から始まり、三月の春季例大祭、八月の風祭、九月の秋季例大祭・御射山祭、十一月の七五三・新嘗祭、十二月の大祓祭。九回の祭事がありますので、下市田区民のご理解

とご協力の下に努めてまいります。

私は今まで会社員でしたので、余り神社のことに関わりがなかったのですが、いざ自分が携わると大変な仕事の量です。

祭事の所作、作法と萩山神社の歴史。御射山、荒神社、本殿、八幡社の歴史等々の事を勉強すると肝に銘じて総代を務めて行かなければと心に誓って苦勞様でした。



総代長 塚本 洋四郎



副総代長 中 平 久 敏



総務部長 中 塚 良 雄



一 区 富 田 紘



三 区 林 宏 之



六 区 大 蔵 隆 廣

特集

正月写真集

幸せ先どりの酉年に！



今年こそ 痩せると
去年も言った 嫁...



寺の門 愛しく撫でる 寒桜



私たち 目がふたつです
ご苦労さま



除夜の鐘
何番目に つけるかな



寝坊して
テレビでおがむ 初日の出



消防の 燃やす炎で 祝う新年

小さな笛がくれた幸せ

二区 松島 浩子

ナとの出会いは、二十年前。長野オリンピックの

私は、四人の子どもの時に伐採された木から作子育てが一段落した今、パートの仕事と、大好きな絵本やおはなし・音楽等を楽しむ毎日を送っています。大好きな趣味の源寺の柿の古木から作ら

れたものです。四人の子ともと一緒に

なんてステキな音色なんだろう。小さな笛コカリ



笛が、多くの人の出会いと、大好きな音楽を楽しむ幸せを運んで

酒と男と銘水と

一区 大藏 喜之

下市田の水道水は実にうまい。しかし、飲み慣れると他にもうまい水があるのではないかと、水汲みに出かけるのだった。中央アルプスは多くの伏流水を生み出し、銘水とな

は湧き水をつかうのであるが、松源寺では猿倉



銘水を用いている。しかし、平時の茶会に用いられるのは水道水だ。一晩汲み置くと、堂所の水道水も遜色ないようだ。松源寺にも井戸はあるのだが、中央道の工事で水質が悪化し、使われていないそう

だ。非常に残念である。

これから始まるリニア工事で、銘水が失われるのではないかと懸念する。

私の一番好きな銘水は辰野町にある。若い頃MTBで近隣を走り回っていた時に見出した銘水だ。じつに甘いのである。糖分が入っているのではなく、ミネラルの割合でそう感じるの

「かっこう」にも入れていた。高森のサークルで昨年末、老人施設に演奏に行った時の事、その日はちょうど私が生まれ育った地区の、父母の世代の方々のミニデイの日でした。再会するのは何十年ぶりでしょう。私の幼少の頃の昔話に花が咲き、涙が出るほど楽しい時間をもらいました。



コカリナが結んでくれた縁だと感動しました。地元、高森のサークル

「かっこう」にも入れていた。高森のサークルで昨年末、老人施設に演奏に行った時の事、その日はちょうど私が生まれ育った地区の、父母の世代の方々のミニデイの日でした。再会するのは何十年ぶりでしょう。私の幼少の頃の昔話に花が咲き、涙が出るほど楽しい時間をもらいました。

二十年の間に、私の手の油で黒光りしてきた小

銘水がある。

さて、生(煮沸してない)はたまにがよろしい。検査済みであるならよいのだが、そうでないもの

地を使う農薬が染み込むことがあるからだ。前述の銘水は両者とも検査済みである。

さて、日曜の夜は銘水で割ったシングルモルトを飲みながら、TVを観ることにしよう。

小さな笛をいつもカバンに入れて、お守りのように持ち歩いています。さて、今年はどんな出会いがあるのでしょうか。

ようこそ下市田へ

下市田のみなさん

こんにちは

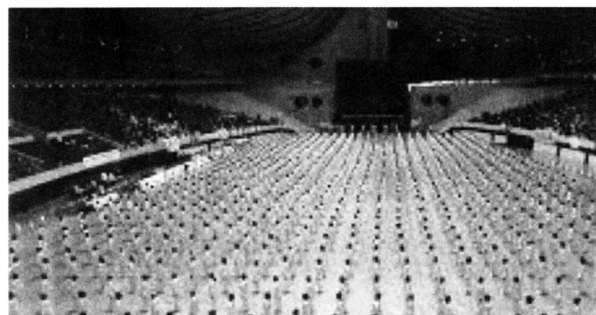
五区 宮嶋 明子

去年の七月、座光寺から下市田五区に移り住みました。以前に上伊那に居た頃、朝から晩まで、一日中雪かきという経験をして腰を痛め、雪の少ないこの地に、主人の退職を機に、終の棲家を構えました。

夫婦二人暮らしで、主

私の実家は山吹で、同じ町内でも、端と端では様子も変わり、静かな果樹園地帯とは違い、電車の音や、暑い夏に窓を開けていると、ただよってくる香しい臭いにも慣れて来

生まれ故郷なのに、知らない事ばかりで、自治会の方が、わざわざ「日限地蔵尊」の由来を調べて下さったり、ご近所の皆様には、とても親切にして頂いて



昨年11月3日、代々木第一体育館にて表演1,050人太極拳です

下市田四区の元旦マラソン

小六 北林 幸弥(四区)

コースは、上り坂があり、けっこうハーミドな道です。でも、良い結果が出せるよう、一生懸命走りました。

下市田四区では、毎年元旦に行っている元旦マラソンという行事があります。今年も会所にたくさんの方が集まりました。まず準備運動をしたあと、十時ごろにスタートしました。

最初に、萩山神社へ向かい、初もうでをしてから、また再スタートをしました。



で、とん汁をいだけました。走り終わった後のとん汁はとてもおいしかったです。

最後の坂を上り終えると、ゴールが見えてきました。順位は九位でした。自分の中ではいいほうなんじゃないのかと思います。その後、景品をもらっ

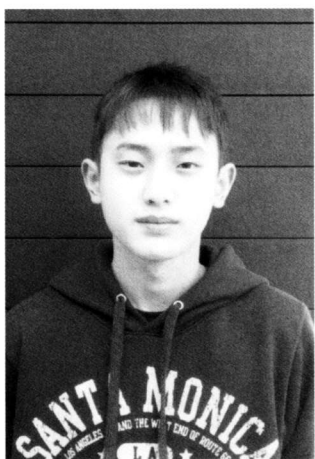
色々あった中学校生活

中三 壬生 敬大(五区)

様々なことがあった中学校生活もあとわずかなってきました。三年間という長いようで短い時間の中で、楽しい時間はたくさんありました。

部活動では、男子ソフトテニス部に所属しており、夏の中体連下伊那地

副委員長となり、クラスでは学級長を



では学級長をしました。クラスをまとめるのは大変だったけど、クラス全員でやるときはすぐく

とでもいいクラスだと思えます。文化祭では役員としてステージ裏で行動することがありました。文化祭までの準備で休日も学校に行くこともあり、当日まで間に合わないのではなかったかと思ったりしました。みんなと協力してなんとか間に合いました。そして、すばらしい文化祭にすることができました。自分達で計画や準備、運営をして最高の文化祭にすることができたのでよかったです。

高校に行けばみんなバラバラになるので残りの日々をみんなと楽しく過ごしていきたいです。

地域の紹介

「地域で共に生きる」

六区自治会長 酒井 渉

方もいるようですが、経費の問題

「庭の柿の木があり、そのままにしておく方がいいです。」

とわかってほしい。地域で抱える課題に対して、町当局にお願いす

望に、当地区域で共に生きる」の発想

「ちょこボラ」で、自治会が他の団体と連携して、住みよい住環

境を維持していくことも大事です。

路の整備(立木枝伐採)や地区館の庭木の手入れ、公園木剪定などの作業の後、このお宅に伺い十数

メートルに高木化した柿の木三本ほどを伐採しました。

高齢がゆえに、独居がゆえに、庭木の手入れや生け垣の整備がままならないでいるご家庭が漸増して

います。シ



ちょこボラ 独居老人支援木伐採

『おんな城主 直虎』 井伊家と松源寺

松源寺住職 市瀬良樹



開山には文叔瑞郁禪師をお迎えしましたが、この方は貞正の

達の本山妙心寺の二十四代住職を務められた程の名僧でした。

この文叔さん、松源寺が出来た前に時の井伊家二十代城主、井伊直平公に招かれ自浄院という小さな庵にお住まいでした。この直平公も大変仏教に帰依された方で、当時この自

今年の大河ドラマ「おんな城主直虎」ではお寺に改めます。この時文叔さんに残って頂き、開山として迎えしようとしてお迎えしようとして、その前に貞正家が「松源寺を造るからお前は帰って来い」という呼び出しがありました。

松源寺は今から約五百年前の永正十年（一五一三）頃、現在の場所より北西、牛牧の寺山に建てられました。現在の松源寺の場所を含めその先一帯には、当時松岡城が広がっており、時の城主、松岡貞正公により松岡家の菩提寺として建てられました。

名を改めています。しまいます。当時の龍潭寺住職南溪和尚が三十年後の天文十三年（一五五四）、井伊谷では亀之丞を松源寺まで逃がし承が殺されそうになってたのです。

編集委員会研修旅行

「浜松 龍潭寺の旅」

このたび編集委員会の研修旅行が十一月二十七日に下井区長さん以下、十九名にて井伊家ゆかりの地、浜松方面に行つてまいりました。

中央道から東海環状へ入り東名三ヶ日ICでおりました。奥浜名湖に広がる三ヶ日の山々は、赤石山脈の赤土でみかん栽培基によって開創され平



安時代から井伊氏の菩提寺であったとされているようです。直盛・直虎・直政をはじめとする井伊氏歴代の墓をはじめ、赤地に井の記が描かれた籠など井伊氏拝領の品も見ることができました。井伊氏ゆかりの足跡は境内の至るところに点在しておりまして。江戸初期に造られ

た国指定名勝庭園は季節、時間帯で雰囲気がちがう心おちつく場所でした。龍潭寺は井伊氏を知る上で欠かすことのできない名所でした。

館山寺温泉にて昼食。海の幸や、鰻を堪能しました。少しだけ雨にも降られた晩秋の一日、無事

区民会館大掃除

様々な行事で地域の皆さんが利用されている区民会館の大掃除が、十二月四日に、各区の分館長・主事・支館三役・支館部員で行われました。

各部屋をはじめ、トイレ・台所、普段掃除できない外回り・窓ふき・蛍光灯の掃除など、皆さん



帰着しました。波乱な戦国時代、亀之丞は今川義元に命を狙われ松源寺に逃げてきたといひます。その昔から浜松井伊谷と高森町は交流が続いているようです。歴史に触れ感慨深い旅となりました。

（松下記）

の協力と、手際良い作業で一年間の汚れがとれて、きれいになりました。これからも、地域の皆さんに、気持ちよく利用して頂けたら嬉しく思います。

（池野記）

編集後記

区報96号をお届けします。区報編集委員会は、年三回発行を実行するなか、萩の郷の今!! 自然・営み・行事・生活・想い等々をつづってまいりました。

多くの区民の皆様の御協力に感謝します。

青空が映えるおだやかな新年を迎えましたが、今年は大きな変化、転換の予感がします。